

職員による自己評価

A環境面

環境面、職員配置の設問ともに「はい」と回答した。

B児童への支援内容

各設問を通し、PDCA の確実な実行が求められているが全体的に PDCA のサイクルを活かしきれず「どちらともいえない」の回答傾向となった。

C関係機関との連携

相談支援事業所、学校、保護者との日頃の情報共有は行えている。医療的ケアが必要な子どもへは医師の指示書を通しての連絡体制となっている。

D保護者への説明責任・信頼関係

契約時の説明、支援計画更新時の面接で相談を行っており、「はい」と回答。

設問中、会報の発行、地域に開かれた事業の運営の項目で「いいえ」が付いた。

E非常対応

緊急時対応マニュアル等各種マニュアルは HP に掲載した。他の項目については「どちらとも言えない」の項目を選択した。

保護者による評価

A環境面

バリアフリーの建物については評価をいただいている。

職員配置についてはわからないとの回答が目立つ。

B児童への支援内容

サービス計画の作成やプログラム内容については概ね良い評価であった。障がいのない子どもとの活動については、そのような活動を事業所へ望んでいないという意見が2件あった。

C事業所からの情報発信

面談や情報伝達等は多くの回答が「はい」であった。

保護者会については実際に開催していないため、大半の回答が「いいえ」となったが、会議場所を提供することもあり一部「はい」の回答もあった。

D非常対応

各種マニュアル、避難訓練の実施についてはいずれも「はい」と「どちらとも言えない」という回答に二分された。

事業所内での分析

【共通点】

子どもたちがゆったりとした時間を過ごせている。また、楽しく通所しているという保護者からの評価は施設の目指すところと一致している。

【相違点】

職員の配置が適切であるか、マニュアルが策定され周知されているか、などの具体的な設問については実際のところがわからず、保護者が回答しにくい様子がみられる。これは事業所の情報発信が十分でないためである。

## 分析・検討してみても…

### 事業所の強み

バリアフリーの建物、周囲に緑が豊かであるという街なかでは得にくい環境である。

隣接の特養の協力関係も強く、職員・入所者との交流ができる。日頃だけではなく、災害など緊急時の避難場所としても協力が得られる点は大変心強い。

ゆったりと、あるいはのびのびと過ごせる環境が整っているとと言える。

### 事業所の改善点

保護者は連絡帳や送迎時の情報を通して事業所を評価していただいていると思う。本来は個々のコミュニケーションと合わせて、全体に向けて発信が必要な情報があるが、会報が休眠状態であったり、月間プログラムが手渡されていないなどの状況にある。

また、会議やケース検討、研修などもPDCAのサイクルに則りつつ職員全体での共有にする部分が不十分である。

### 事業所の改善への取り組み

個々の保護者とのコミュニケーションは取れているが、全体への発信が弱い。手渡しの会報など現状ではこなせていないことから考えて、HPの利用による情報発信を進めていくようにつとめる。

PDCAのサイクルに則った事業運営を行うことを意識し、課題を一つ一つ丹念に解決していくことにつとめる。

子どもの支援についてはケース会議を反映させて、ゆったり、のびのびの上に個々の成長に合わせた支援計画、プログラムの充実につとめる。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

研修を受けた、会議を開いた後、何か足りない、やらなければならないという思いを具体的にはどうするか  
が自己評価を行うことで整理できたように思います。